

将 来 構 想

令和8年9月
京 都 府

将来構想 目次

1. これまでの経緯
2. 社会経済情勢の変化
3. 精神性の宿る京都の営み
4. 「わくわくする京都」の実現
5. 京都が実現したい 2040 年の姿

（参考）「総合計画」の構成

「総合計画」とは、平成 23（2011）年に制定した「京都府行政運営の基本理念・原則となる条例」第 4 条の規定により、京都府のめざす方向性を将来構想、基本計画等の形で明らかにするものです。京都府総合計画は、「将来構想」と「基本計画」、「地域振興計画」によって構成しています。

1. これまでの経緯

府政の羅針盤ともいうべき「京都府総合計画」については、計画期間を1年前倒し、令和4年12月に改定したところです。

今から4年前、新型コロナウイルス感染症の拡大を抑制するため、不要不急の外出・移動の自粛や飲食店等に対する営業時間短縮の要請などが行われていました。また、社会経済情勢の停滞が、非正規雇用などの社会的に弱い立場の方々の生活により大きく影響していました。

さらに、令和4年2月に発生したロシアによるウクライナへの侵攻では、健やかな暮らしの前提である平和が脆くも失われる様子を目の当たりにすることとなりました。

こうした状況を踏まえ、「人と人との絆や交流」「府民の皆様や地域との信頼関係」「社会的に弱い立場にある方々に寄り添うこと」などの重要性を改めて認識し、「安心」「温もり」「ゆめ実現」の3つの視点に基づき、「あたたかい京都」づくりを目指すこととしたところです。

2. 社会経済情勢の変化

他方で、社会経済情勢は大きく変化しつつあり、これまでの取組の成果と課題も踏まえながら、「あたたかい京都」の上に、この間の変化に対応した新たな京都の姿を描かなければなりません。

我が国最大の構造的課題ともいえるべき人口減少は一層深刻化し、例えば、地域コミュニティの希薄化、地域のスーパーマーケットの閉店や、住民の重要な移動手段である地域交通の減便、伝統産業やエッセンシャルワーカーをはじめとする、あらゆる分野における担い手不足など、日々の暮らしや事業活動に影響が生じています。また、相次ぐ小中学校の閉校、合併・統合など教育環境にも大きな変化が生じています。

令和5年7月に、グテーレス国連事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と表現しましたが、気候変動は、災害の激甚化・頻発化に加え、自然景観や農林水産物、伝統産業の原材料に大きな影響を与えています。また、酷暑日などの極端な高温の増加により、熱中症などが増加するとともに、子どもたちが屋外で遊び、学ぶことが難しくなりつつあります。

AIによる技術革新は、これまでの技術の進歩とは次元を異にする深度と速度で、人々の暮らしを変えつつあります。AGI（汎用人工知能）の到来が予測されている中、人類が新たな地平に到達する可能性が示唆されている一方、人間のあり方そのものが問われています。また、一夜にして変化する雇用や安全保障を巡る環境、瞬く間に伝播するフェイク情報など、AIは、人と人との関係、働き方、学び方、創造のあり方を急速に変容させています。

中東情勢の緊迫化などの国際情勢の不安定化は、一時的なショックではなく継続的な課題となっており、エネルギー価格の高騰やサプライチェーンの分断など、私たちの暮らしや事業活動にも直接的かつ継続的な影響を与えています。

これらの変化によって、社会の不確実性が高まり、人々の置かれる環境や価値観が多様化する中で、世代、国籍、文化的背景、価値観などをめぐる社会の分断が顕在化しつつあります。デジタル技術の普及は、接する情報が偏るフィルターバブルや同質的な意見が増幅するエコーチェンバーなど、人と人とのつながりや地域社会の支え合いといった他者への共感や相互理解を弱めているとの指摘もなされています。

また、文化や自然が本来持つ意味や背景への理解が十分に継承されないまま、その外形だけが消費されることへの懸念もあります。神社仏閣、街並み、伝統産業、食文化、祭礼などが、単なる観光資源や商品としてのみ受け止められるならば、京都の持つ根源的な価値や魅力は次第に痩せ細っていく恐れがあります。

3. 精神性の宿る京都の営み

京都は、南北に長く、それぞれの地域に国内外を魅了する多様な魅力の源泉が存在します。山紫水明の景観と恵みを生み出す豊かな自然、神社仏閣や歴史的建造物、文化芸術、華道・茶道や食などの生活文化、全国トップレベルの知の集積、伝統産業から先端ものづくり産業までの幅広い産業。これらの魅力の源泉は、悠久の歴史の中で受け継がれ、育まれてきたものです。

例えば、先人たちは、自然とともに生きるものと受け止め、自然の恵みと厳しさの双方に向き合う中で、四季折々の草花、丹後の海、丹波の森、山城の茶畑、里山の営みなどに、季節の移ろいの美や命の循環の力強さを見出してきました。

こうした心根は、一輪の花や一本の枝に、草木の生命の輝きと季節の移ろいを見いだす華道にも息づいています。花をいけるという営みは、自然を切り取り、飾ることにとどまらず、限りある命と向き合い、その一瞬の姿に心を寄せる行為でもあります。

また、府内各地にある神社仏閣は、宗教施設としての役割に留まらず、人々が心を整え、自然と向き合い、過去と未来を結び付ける場として、今日まで受け継がれてきました。神社仏閣をよりどころに行われる祭礼や年中行事は、地域の人々が同じ時を過ごし、同じリズムを共有し、世代を超えて地域の記憶をつなぐ機会でもあります。

このように、長い歲月の中で、自然と向き合い、人と人との関係を結び、学び、働き、創り、受け継いできた営みの積み重ねとして、自然の移ろいを感じ取る心、目に見えない価値を大切にする姿勢、日々の暮らしの中に美や意味を見いだす感性、そして人と人との支え合いながら生きる知恵を含む精神文化である、「京都の精神性」が形作られてきました。

京都では、市井の所作、言葉遣い、食、音、香り、道具、街並み、人と人との間合いなどの営みの中に、京都の精神性を感じ取ることができます。

このような精神性の宿る京都の営みこそが、国内外の人々を魅了してやまない京都の本質的な力です。そしてまた、その精神性が、自然、文化、産業、学術、地域社会といったそれぞれの地域が有する多様な魅力の源泉を、個性を受け入れながら和をもって繋ぎ合わせるとともに、それらを磨き上げ、時代を超えて新しい価値を生み出してきました。

先人たちは、京都の精神性を生み出し、引き継ぐ工夫を重ねてきました。

人間は、情報を交換するだけの存在ではありません。顔を合わせ、同じ場に身を置き、共に食し、語らい、時に沈黙を分かち合うことによって、相手の心の動きに気づき、信頼を育み、新たな創造へと向かう存在です。こうしたことを踏まえ、先人たちは、人と人との出会い、語り合い、互いの違いを受け止めながら新しい関係を育む「社交・交流」の場を幾重にも重ねることによって、京都の精神性を育み、伝えてきました。

加えて、京都には、府域の至る所で人々が、それぞれの役割や志を持ちながら社会と関わり、その営みの中に生きる意味や喜びを見いだしてきた歴史があります。

農林水産業に携わる人、伝統産業を支える匠、地域コミュニティを守る人、福祉や医療、教育を担う人、文化芸術を創造する人、研究やものづくりに挑む人、新たな事業を起こす人、家庭や地域で日々の暮らしを支える人など、京都の精神性は、そうした一人ひとりの営みによって受け継がれてきました。

近年、世界においても、日本語の「生きがい」という考え方への関心が高まっています。生きがいとは、単に仕事の成功や経済的な豊かさを意味するものではありません。自分の存在が誰かとつながっていること、自らの役割を実感できること、日々の暮らしの中に小さな喜びや誇りを見いだせること、そして未来に向かって何かを学び、挑戦し続けることの中に、人生の意味を感じる考え方です。

こうして見れば、社会経済情勢が大きく変化しつつある中においても、京都の精神性を次世代に伝えるため、過去から受け継がれてきた伝統を静かに保存することに留まらず、社交・交流の場において重層的な交わりを持ちながら、一人ひとりが生きがいをもって未来に挑戦する京都であり続けなければいけません。

4. 「わくわくする京都」の実現

今、私たちに求められているのは、代々受け継いできた魅力の源泉を、懐古的に守るだけでなく、その背後にある意味、物語、祈り、関係性といった京都の精神性をこれからの時代にふさわしい形で育て直し、次世代へ伝えていくことです。

京都の精神性をつないできたのは、その時々に関都に住まい、京都に結び付いてきた先人たちです。その営みは、勇気を出してチャレンジしたその先に、あるいは未知との出会いや新たな体験の先に祖先から引き継いだ価値を磨き上げることもあれば、自分の足元や周囲を見つめ直すことで、これまで当たり前のように身近にあった価値に改めて気づかされることもあったはずです。

いずれにおいても共通していることは、その営みの瞬間に、先人たちは「わくわく」し、喜びや充実感に満たされていた、ということはないでしょうか。

「わくわく」を感じる瞬間は、お一人おひとりによって異なります。けれども、京都には、千年を超える歴史の中で培われてきた、一時的な高揚感や消費される楽しさだけではない、静かでありながらも真・善・美を求める永続的な「わくわく」があります。

- ー 豊かな自然と共に生き、暮らしの中で四季折々の移ろいを感じながら、ゆったりとした時間の流れの中で、多様な個性の響き合いを楽しむ。
- ー 手塩にかけて育てた木材が、匠の技によって神社仏閣に用いられ、永く愛され、次の世代の祈りや誇りへとつながっていく。
- ー 子どもたちが地域の祭りや自然、ものづくり、文化芸術に触れ、自分たちの暮らす地域に誇りを持ち、未来の担い手としての自覚を育んでいく。
- ー 高齢者が長年培ってきた知恵や経験を地域で活かし、若者や子どもたちと交わりながら、自らの役割と生きがいを実感して暮らしていく。

- ー 自然、文化、地場産業などの地域が育んできた魅力が結び目となり、住民と国内外の人々が出会い、語り合い、地域の暮らしがさらに豊かなものになる。
- ー アカデミアの知や京都企業の技術を活かしながら、年齢や性別に関わらず誰もが挑戦でき、生み出されたイノベーションが次の挑戦へとつながっていく。

これらの「わくわく」の根底には、安心感が不安な気持ちを上回り、安心の上に期待感が生まれるという構造があります。人は、不安に押しつぶされているときには、他者と出会い、学び、挑戦する力を十分に発揮することができません。だからこそ、府民の皆様の暮らしの安心・安全を守ることは、あらゆる政策の土台です。

京都には、こうした安心感の先にある「わくわく」を生み出す工夫に溢れています。例えば、互いの振る舞いを予測・理解できるようにする「型」や「作法」の存在は、相手を尊重し、程よい距離を保ちながら、安心して同じ場を共有するための知恵です。

茶道においては、特定の型や作法にしたがって、場が整えられ、居ずまいを正して亭主と客人が同じ時を共有します。その安心感の上に、設え、道具、菓子、掛け軸、庭の景色などを通じて、季節や相手への思いを汲み取ることによって、新たな交流を生み出してきました。

また、地蔵盆においては、町内を挙げて準備を整え、ともに時を過ごす中で、子どもたちや新たに地域に加わった人々が、その地域に受け継がれてきた型や作法と言うべき風習に触れ、安心感と帰属意識をもってコミュニティの一員となってきました。

こうした安心感を生み出す京都文化の型や作法を大切にしながら、安心の土台の上に、人とのつながりが生まれ、自分の役割を実感し、新しい出会いや学びに心が動き、未来に向かって一步を踏み出したくなる。この、安心、多様性とともに、挑戦と創造によって生まれる、前向きな生命感が京都ならではの「わくわく」であると考えます。

5. 京都が実現したい 2040 年の姿

私たちは、「あたたかい京都」の上に、この間の社会経済情勢の変化を踏まえ、「安心」「はぐくみ」「輝き」の3つの視点に基づき、子どもから、若者、現役世代・子育て世代、お年寄りまで、誰もが安心の土台の上で人とつながり、自らの役割と生きがいを実感し、未来に向かって挑戦できる「わくわくする京都」をつくり上げるべく、新しい総合計画を策定することといたしました。

具体的には、それぞれの地域において京都の精神性が受け継がれ、地域に誇りを持つことができるとともに、独自の精神性によって世界を魅了し続ける「わくわくする京都」を実現するための 2040 年の姿として、以下の4つを提示します。

【安心】

① 安心・安全が実感できる京都府

安心・安全は、あらゆる活動の土台となるものであり、府内どの地域においても、府民の皆様が健やかに暮らし続けることができる京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像①：住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる京都

未来像②：災害や犯罪等からの安心・安全な京都



※本計画の取組と SDGs の 17 の目標との関連性について示しています。

【はぐくみ】

②世代を超えて交流し、多様な主体が生涯にわたって活躍できる京都府

一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、多様な個性が受け入れられる環境の中で、年齢・性別などに関わらず、誰もが教育や学び直しの機会を通じて、生涯にわたって学び続け、能力を発揮し、交わることでできる京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像③：笑顔があふれる「子育て環境日本一・京都」

未来像④：地域や海外とつながり、夢を描ける京都

未来像⑤：誰もが生涯にわたって輝き続けられる京都



【輝き】

③挑戦とイノベーションの循環により力強く成長する京都府

匠の技が活きる伝統産業、ニッチトップの技術を持つ中小企業、先端ものづくり技術を持つ世界的企業、新たな潮流を生み出すスタートアップなど、多様な産業において、絶えず挑戦とイノベーションの循環が回り続ける京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像⑥：経済の好循環によって文化や伝統が受け継がれる京都

未来像⑦：芸術やスポーツを通じて感動が生まれ心が躍る京都

未来像⑧：成長分野への投資が働く人々の活力を生み続ける京都

未来像⑨：イノベーションで世界をリードする産業創造都市・京都

未来像⑩：世界の知が集う文化学術研究拠点・京都



④地域の魅力が磨き上げられ精神性が受け継がれる京都府

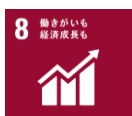
地域の生活、文化を形作り、国内外の人々との交流の懸け橋となる地域の魅力が磨き上げられ、次の世代に受け継がれる京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像⑪：訪れる人と地域が交わり出会いが広がる京都

未来像⑫：地域の食が誇りと豊かさをつなぐ京都

未来像⑬：北部地域の多彩な魅力がつながり輝く京都



【基盤整備等】

そして、これら4つの「2040 年に目指すべき姿」の実現と、府域の均衡ある発展を支える土台として、基盤整備を着実に推進します。また、京都市との協調により行政課題を乗り越え、新たな施策を力強く推進し、その成果を府内全ての市町村に広げることによって、府全域の発展を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像⑭：人・モノ・情報が行き交い、活力があふれる京都

未来像⑮：府市協調を更に深化させ府全域が発展する京都